

検査Ⅳ 国語

【一】次の文章を読んで、各問いに答えなさい。



(山竹伸二『ひとばなせ』認められたら「のか」承認不安を生きる知恵』による)

問一 傍線部①～⑤について、漢字はその読みを、カタカナはその漢字を書きなさい。

問二 空欄Ⅰ～Ⅲに当てはまる適切な語を、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア また イ たとえば ウ つまり エ やがて オ とはいえ

問三 本文には、「承認不安はアイデンティティの不安とも密接に関係しています。」の一文が抜けている。この一文はどの段落の直前に入れるのが最も適切か。その段落の最初の五字を抜き出し、書きなさい。

問四 傍線部A「自由と承認の葛藤」とあるが、その説明を次のようにまとめた。空欄に当てはまるよう、適切な語を指定の文字数で本文中より抜き出し、書きなさい。

求められる。それに対して、a (二字)の承認を得るためには、宗教に代表されるb (六字)に合わせた行動がなければならない。近代になり、人々はこの二つの欲求のいずれを取るか迷うようになったという。

問五 傍線部B「承認不安はますます大きくなりました」とあるが、それはなぜか、六〇字以内で説明しなさい。

問六 傍線部C「その思考と行動様式」とあるが、その内容が書かれている一文を本文中より抜き出し、最初の五字を書きなさい。

問七 傍線部D「承認不安がいびつな形で現れているのです」とあるが、それはなぜか、その理由を八〇字以上一〇〇字以内で説明しなさい。

問八 傍線部E「存在の承認」には親和的承認とは異なるものもあります」とあるが、「存在の承認」と「親和的承認」の共通点と相違点について、一〇〇字以上一二〇字以内で説明しなさい。

問九 この文章の表現に関する説明として適当なものを、次のア～オの中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア この文章は、筆者の意見や根拠に対する反論を想定しながら、論を展開することによって、より自らの考えを深めるものになっている。

イ この文章は、事実が生じた背景や原因、経過などを整理して書き表すことによって、筆者が取り上げた事実への理解を深めるものになっている。

ウ この文章は、通説や他人の意見を引用することで、自らの主張の根拠を強くし、説得力を増すものになっている。

エ この文章は、読者に問いかける形で話題を提示した後で説明することによって、読者の理解を深めるものになっている。

オ この文章は、比喩を多用し、説明をし直すことによって、より明確にイメージしやすいものとなっている。

【二】次の文章は、室町初期の武將で歌人でもあった今川了俊が、九州探題として太宰府に赴いた際の紀行文『道行ぎぶり』の一節である。これを読んで、各問いに答えなさい。

さて\*湊川といふ所に、一夜とどまりて明けしかば、都より慕ひ来つる友達、一人、二人、「今は」と  
 ①あかれ行くほどに、いとど心細くて、「行き愛して」といひつべきほどなり。

A 旅衣朝たつ袖の湊川かはらぬ瀬にとなほや頼まむ

須磨になりぬ。所のさまは、あながちに、これぞと目とどまるばかりのふしはなけれども、\*山かたかけたる家どもの、物はかなげなるに、柴垣うちしつ、\*竹の簀垣のふし、にくげに見えたるも、②かの昔の御座所のさま、思ひよそへられたり。ここぞ\*関屋の跡とばかりいへど、この頃は、荒れたる板屋だになく、(B)守る人もなかりき。磯際近く行きめぐる海人の小舟見ゆ。かの\*新発意が明石の住み所に、さし渡しけむ浦伝ひも、ここなりけむかし。

山もこの海面をはるはると行くほどに、\*大蔵谷といふ所あり。松の木立、白洲の色までも、心とどまりぬべきを、名のことごとしげなるぞ心憂きや。あまぎへ旅人の舟どもうかがふなる\*白浪の寄り来る舟など繁しと言ひ恐りて、慌しく急ぎ過ぐるなるべし。うたて、などしもかかるおもしろき所に、③かやうのさはりの侍るらた。

明石の浦は、ことに白浜の色もけちめ見えたる心地して、④雪を敷けらむやうなるうへに、緑の松の年深くて、浜風になびきなれたる枝に、手向草うち繁りつつ、村々並み立てり。岡辺の家居も所々に見えたり。住吉にては、霞にまがひし淡路島もほど近くて、ことに見所多し。

\*播磨路はすべていづくも、心とどまる所ぞ侍る。\*印南野といふは、遙かにおし晴れて、四方にくまなく浅茅枯れわたりて、やうやう下萌え出づるも、いと興あり。

C 勅なれば国治めにと印南野の浅茅の道も迷はざらなむ

\*湊川：摂津国の歌枕。六甲山地に源を発し、神戸市の市街地の中央を貫通する川。

\*山かたかけたる…山の傍らにある、の意。

\*竹の簀垣…竹で間を透かして作った垣。

\*関屋の跡…神戸市須磨区関守町の関守稻荷の辺りにあった須磨の関所の跡。

\*新発意…発心して仏門に入った者。ここは「源氏物語」の明石入道のこと。

\*大蔵谷…兵庫県明石市大蔵谷。

\*白浪…盗賊の異称。

\*播磨…兵庫県。

\*印南野…播磨国の歌枕。兵庫県加古川市から東方明石市にかけての平野。

問一 傍線部①について、本文中での意味を答えなさい。

問二 Aの和歌について、

(一) 掛詞を説明しなさい。

(二) この和歌に込められた心情を簡潔に答えなさい。

問三 傍線部②について、この場面での作者の心情について、「かの昔」の内容を明らかにして説明しなさい。

問四 空欄Bにあてはまる語として最も適当なものを、次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

ア まいて    イ やがて    ウ いささか    エ いとど    オ なべて

問五 傍線部③について、「さほり」の内容を答えなさい。

問六 傍線部④に用いられている表現技巧とその効果について説明しなさい。

問七 Cの和歌について、

(一) 「迷はせむらなむ」を文法的に説明しなさい。

(二) 和歌全体を口語訳しなさい。

〔三〕次の文章を読んで、各問いに答えなさい。なお、設問の都合で、送り仮名と返り点を省いたところがある。また、編集の都合上、一部の漢字には異体字を用いている。

貞観八年、左僕射房玄齡、右僕射

高士廉、於路逢少府監竇德素、問北

門近來更有何營造。德素以聞。太宗

乃謂玄齡等曰、君但知南牙事。我北

門少有營造、何預君事。玄齡等拜謝。

魏徵進言曰、臣不解陛下責意。亦

不解玄齡士廉拜謝意。玄齡既任大

臣。即陛下股肱耳目。有所營造、何容

不知。責其訪問官司、臣所不解。

且所為有利害、役功有少。陛下、

所為若是、當助陛下之。所為不是、

A

雖<sup>b</sup>已<sup>ニ</sup>營<sup>ス</sup>造<sup>スト</sup>、當<sup>ニ</sup>奏<sup>シテ</sup>陛<sup>下</sup>下<sup>ニ</sup> **B** 之<sup>ヲ</sup>。此<sup>レ</sup>乃<sup>チ</sup>君<sup>使</sup>使<sup>ヒ</sup>  
 臣<sup>ヲ</sup>、臣<sup>事</sup>事<sup>ス</sup>君<sup>ニ</sup>之<sup>道</sup>道<sup>ナリ</sup>。玄<sup>齡</sup>齡<sup>等</sup>等<sup>ガ</sup>問<sup>ヒ</sup>既<sup>ニ</sup>無<sup>シ</sup>罪<sup>ニ</sup>。而<sup>ル</sup>  
 陛<sup>下</sup>下<sup>ニ</sup>責<sup>ム</sup>之<sup>ヲ</sup>。玄<sup>齡</sup>齡<sup>等</sup>等<sup>ガ</sup>不<sup>レ</sup>識<sup>テ</sup>所<sup>ヲ</sup>守<sup>ル</sup>、但<sup>ッ</sup>知<sup>ル</sup>拜<sup>ス</sup>  
 謝<sup>ス</sup>。臣<sup>亦</sup>亦<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>解<sup>セ</sup>。太<sup>宗</sup>宗<sup>深</sup>深<sup>ク</sup>愧<sup>ツ</sup>之<sup>ヲ</sup>。

〔貞觀政要〕より

(注) \* 「左僕射」「右僕射」は、宰相の任。

\* 「少府監」は、唐代、宮繕のことなどを掌った官。

\* 「北門」は、ここでは宮中の内廷をさす。

\* 「南牙」は、宰相の役所。

問一 傍線部 a、b、c について、本文における読みを送り仮名も含めてひらがなで答えなさい。

問二 傍線部 ①の意味を答えなさい。

問三 傍線部 ②とは、どういうことか。本文に即して具体的に説明しなさい。

問四 傍線部 ③の魏徴の言葉はどこまでか。終わりの四文字を抜き出しなさい。(句読点は含まない。)

問五 傍線部 ④とは、どのような存在をたとえたものか答えなさい。

問六 傍線部 ⑤について、

(一) 書き下し文として、最も適切なものを次のア、イから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 何れの容か知らざらん。 イ 何れの容か知らざる。

ウ 何ぞ知らざるべけんや。 エ 何ぞ知らざるべき。

(二) わかりやすく現代語訳しなさい。

問七 空欄【A】【B】に入る最も適切な語句を次の中からそれぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。

ア 罷 イ 罰 ウ 成 エ 賞

問八 傍線部 ⑥と述べた理由を五十文字以内で具体的に答えなさい。

問九 傍線部 ⑦について、「之」の指す具体的な内容を明らかにして現代語訳しなさい。